

生物多様性についてのアンケート結果

県では、平成27年3月に「生物多様性しが戦略」を策定し、生物多様性の保全と持続的な利用のための取り組みを進めているところです。戦略策定から2年が経過したことから、生物多様性および生物多様性に関連して、エコツアー、ジビエの活用についての県民の方々の意識調査を目的としてアンケート調査を実施しました。

★調査時期：平成29年5月

★対象者：県政モニター400人

★回答数：358人（回収率89.5%）

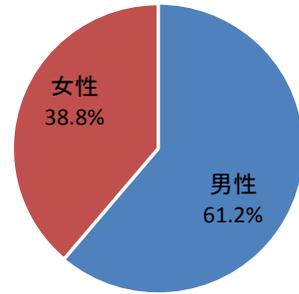
★担当課：自然環境保全課

（※四捨五入により割合の合計が100.0%にならない場合があります。）

【属性】

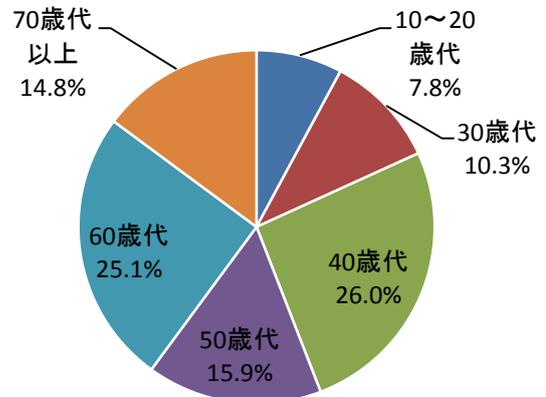
◆性別

項目	人数（人）	割合（%）
男性	219	61.2
女性	139	38.8
合計	358	100



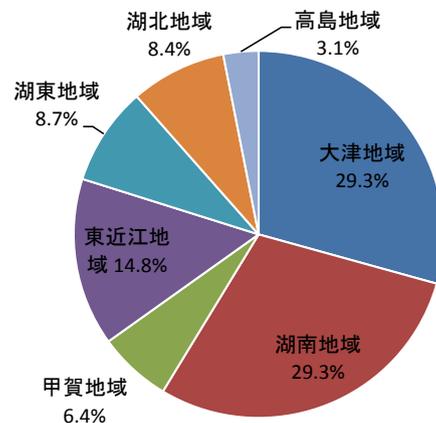
◆年代

項目	人数（人）	割合（%）
10・20歳代	28	7.8
30歳代	37	10.3
40歳代	93	26.0
50歳代	57	15.9
60歳代	90	25.1
70歳以上	53	14.8
合計	358	100



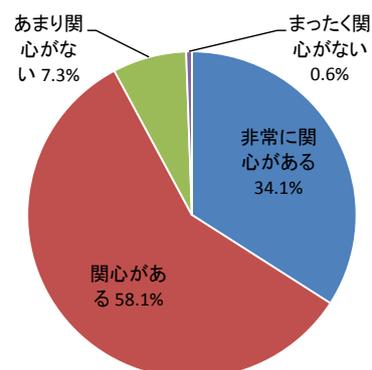
◆地域

項目	人数（人）	割合（%）
大津地域	105	29.3
南部地域	105	29.3
甲賀地域	23	6.4
東近江地域	53	14.8
湖東地域	31	8.7
湖北地域	30	8.4
高島地域	11	3.1
合計	358	100



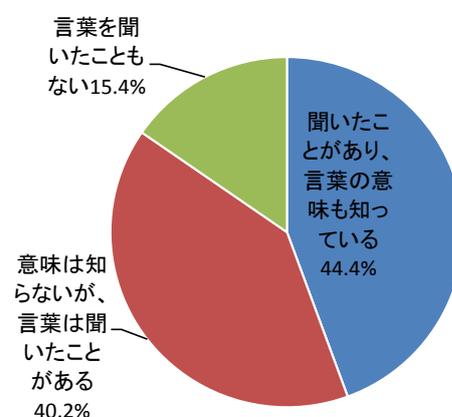
問1 あなたは自然についてどの程度関心を持っていますか。(回答チェックは1つだけ。 n=358)

項目	人数(人)	割合(%)
非常に関心がある	122	34.1
関心がある	208	58.1
あまり関心がない	26	7.3
まったく関心がない	2	0.6
合計	358	100



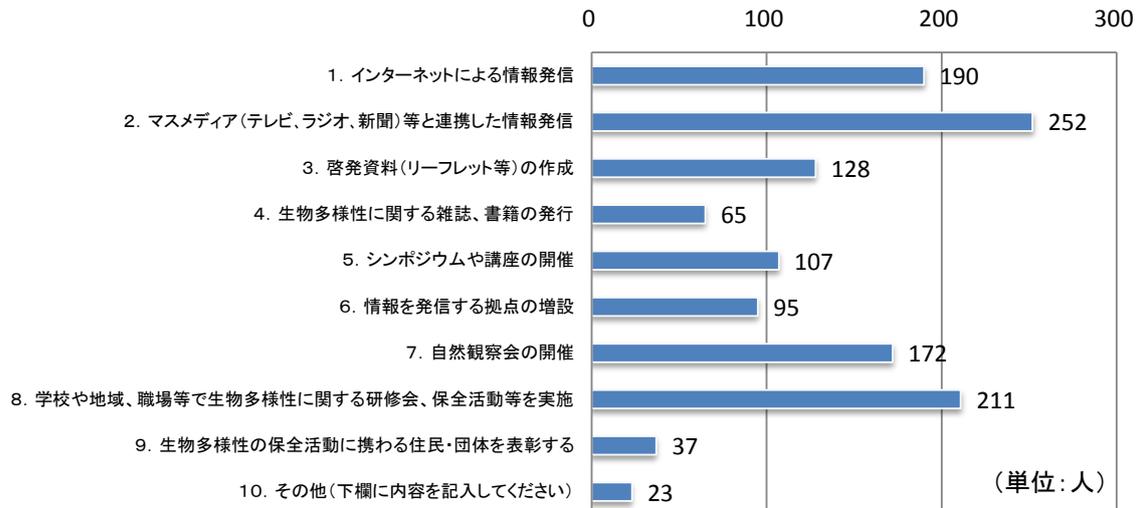
問2 あなたは、「生物多様性」※の言葉の意味を知っていますか。(回答チェックは1つだけ。 n=358)

項目	人数(人)	割合(%)
聞いたことがあります、言葉の意味も知っている	159	44.4
意味は知らないが、言葉は聞いたことがある	144	40.2
言葉を聞いたこともない	55	15.4
合計	358	100



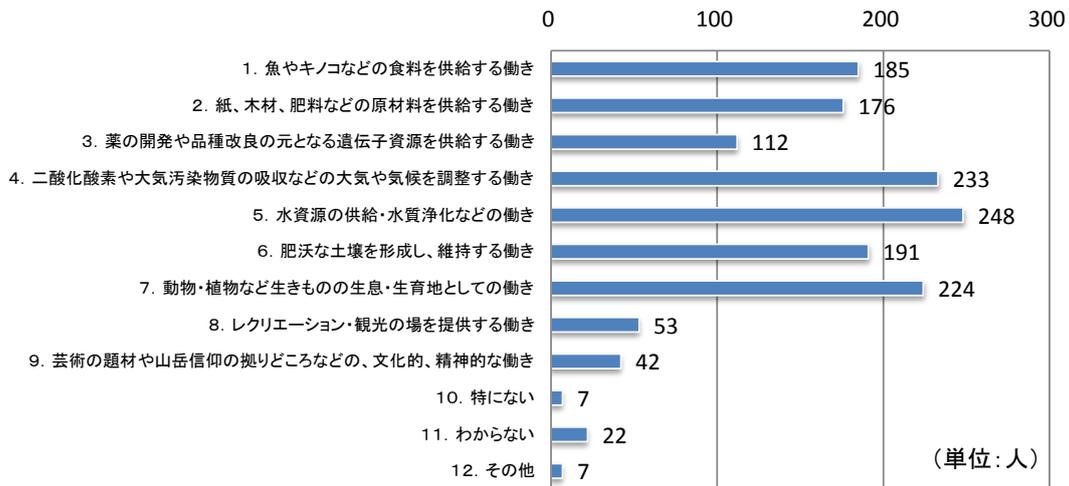
問3 「生物多様性」を広く知っていただくために、どのような方法が有効であると思われるか。(回答チェックはいくつでも可。 n=358)

項目	人数(人)	割合(%)
インターネットによる情報発信	190	53.1
マスメディア(テレビ、ラジオ、新聞)等と連携した情報発信	252	70.4
啓発資料(リーフレット等)の作成	128	35.8
生物多様性に関する雑誌、書籍の発行	65	18.2
シンポジウムや講座の開催	107	29.9
情報を発信する拠点の増設	95	26.5
自然観察会の開催	172	48.0
学校や地域、職場等で生物多様性に関する研修会、保全活動等を実施	211	58.9
生物多様性の保全活動に携わる住民・団体を表彰する	37	10.3
その他(任意)	23	6.4



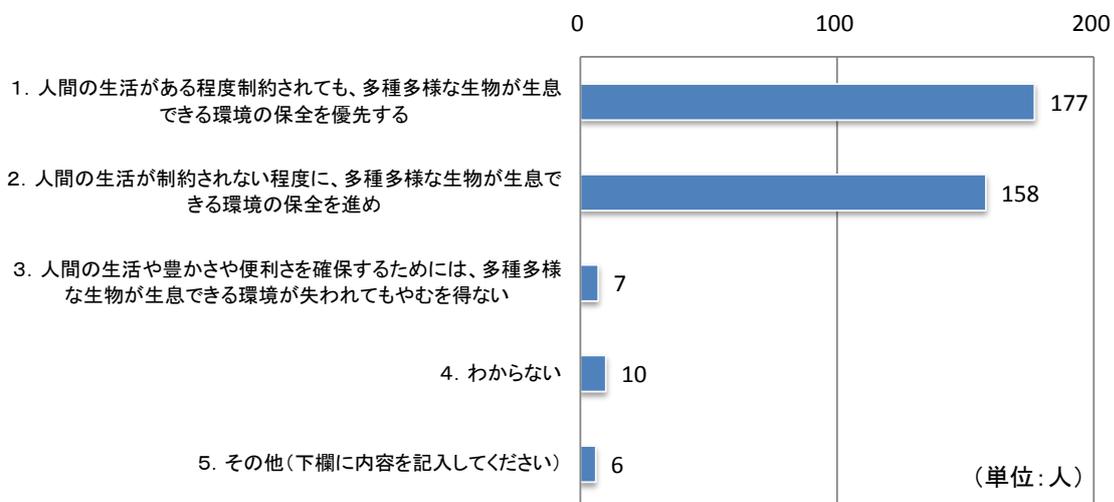
問4 わたしたちの生活の中であたりまえと思っていることの多くが、生物多様性のたくさんの恵みの上に成り立っています。この恵みのことを「生態系サービス」と呼んでいます。あなたは「生態系サービス」のなかで、どのようなものが重要だと考えますか。
(回答チェックはいくつでも可。n=358)

項目	人数(人)	割合(%)
魚やキノコなどの食料を供給する働き	185	51.7
紙、木材、肥料などの原材料を供給する働き	176	49.2
薬の開発や品種改良の元となる遺伝子資源を供給する働き	112	31.3
二酸化酸素や大気汚染物質の吸収などの大気や気候を調整する働き	233	65.1
水資源の供給・水質浄化などの働き	248	69.3
肥沃な土壌を形成し、維持する働き	191	53.4
動物・植物など生きものの生息・生育地としての働き	224	62.6
レクリエーション・観光の場を提供する働き	53	14.8
芸術の題材や山岳信仰の拠りどころとなるなどの、文化的、精神的な働き	42	11.7
特にない	7	2.0
わからない	22	6.1
その他(任意)	7	2.0



問5 生物多様性の保全のため、貴重な動植物をはじめとするさまざまな生物やそれらが生息できる環境を守る取組が進められていますが、あなたは、このことについてどのようにお考えですか。(回答チェックは1つだけ。 n=358)

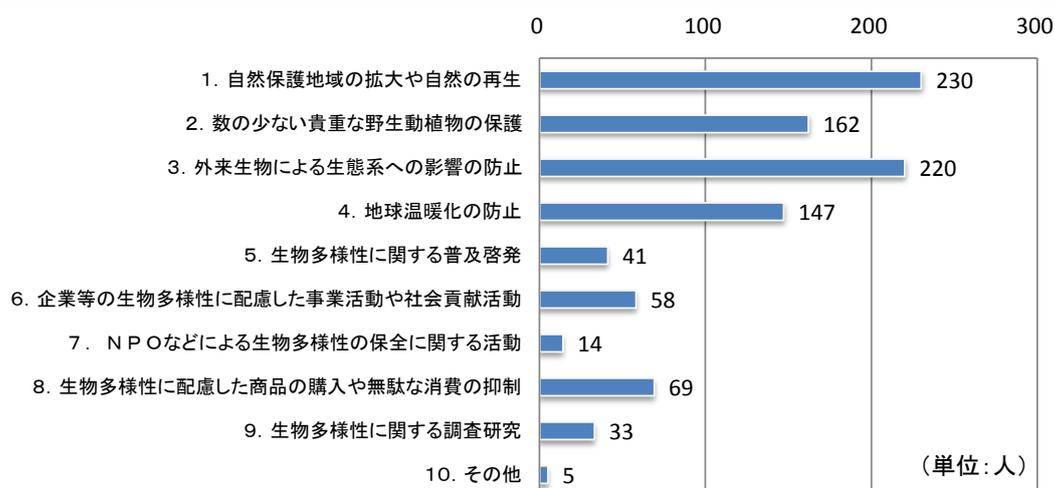
項目	人数 (人)	割合 (%)
人間の生活がある程度制約されても、多種多様な生物が生息できる環境の保全を優先する	177	49.4
人間の生活が制約されない程度に、多種多様な生物が生息できる環境の保全を進める	158	44.1
人間の生活や豊かさや便利さを確保するためには、多種多様な生物が生息できる環境が失われてもやむを得ない	7	2.0
わからない	10	2.8
その他 (任意)	6	1.7
合計	358	100



問6 生物多様性を保全していくために、どのようなことが重要だと考えますか。

(回答チェックは3つまで。n=358)

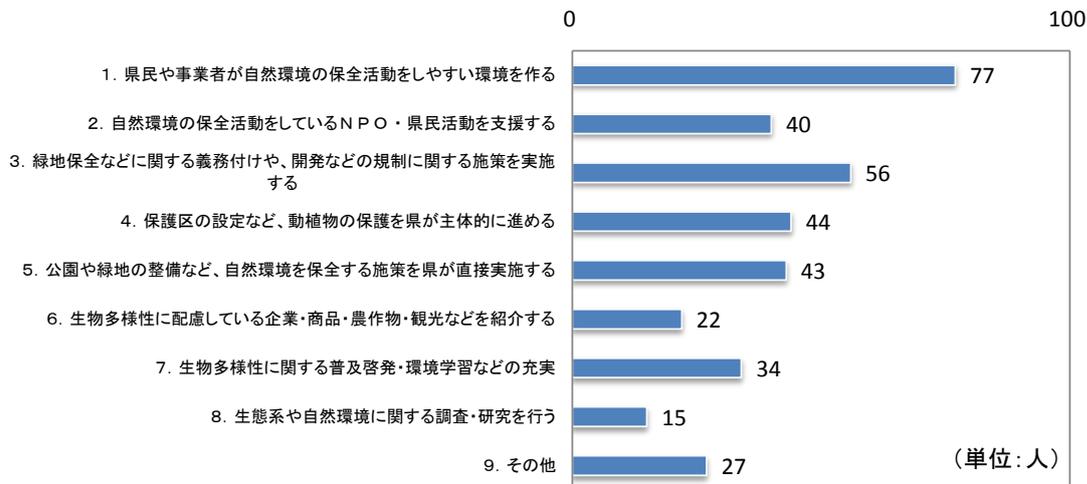
項目	人数(人)	割合(%)
自然保護地域の拡大や自然の再生	230	64.2
数の少ない貴重な野生動植物の保護	162	45.3
外来生物による生態系への影響の防止	220	61.5
地球温暖化の防止	147	41.1
生物多様性に関する普及啓発	41	11.5
企業などによる生物多様性に配慮した事業活動や社会貢献活動	58	16.2
NPOなどによる生物多様性の保全に関する活動	14	3.9
生物多様性に配慮した商品の購入や無駄な消費(食べ物など)の抑制などの消費行動	69	19.3
生物多様性に関する調査研究	33	9.2
その他(任意)	5	1.4



問7 生物多様性を保全したり生き物と共生していくためには、滋賀県がどのような取組をしていく必要があると思いますか。(回答チェックは1つだけ。 n=358)

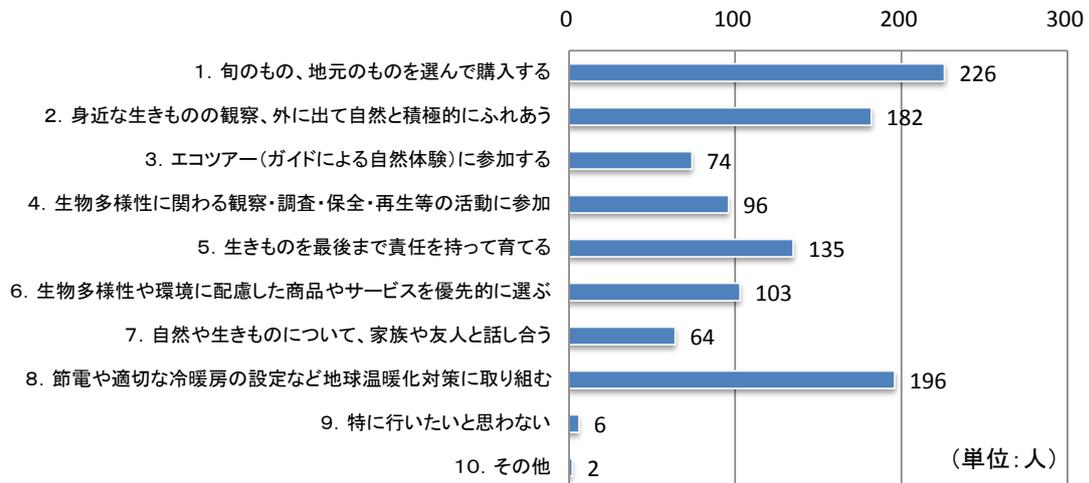
項目	人数(人)	割合(%)
県民や事業者が自然環境の保全活動をしやすい環境を作る	77	21.5
自然環境の保全活動をしているNPO・県民活動を支援する	40	11.2
緑地保全などに関する義務付けや、開発などの規制に関する施策を実施する	56	15.6
保護区の設定など、動植物の保護を県が主体的に進める	44	12.3

公園や緑地の整備など、自然環境を保全する施策を県が直接実施する	43	12.0
生物多様性に配慮している企業・商品・農作物・観光などを紹介する	22	6.1
生物多様性に関する普及啓発・環境学習などの充実	34	9.5
生態系や自然環境に関する調査・研究を行う	15	4.2
その他（ 任意 ）	27	7.5
合計	358	100



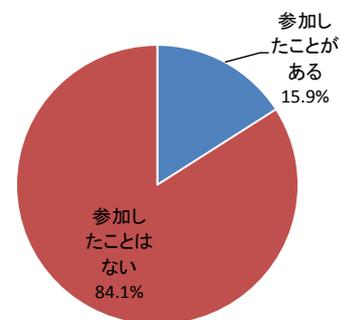
問8 あなたは、生物多様性に配慮した行動として、これからどのようなことを行いたいと思いますか。これまでにやってきたことも含めてお答えください。(回答チェックはいくつでも可。n=358)

項目	人数(人)	割合(%)
旬のもの、地元のものを選んで購入する	226	63.1
身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的にふれあう	182	50.8
エコツアー(ガイドによる自然体験)に参加する	74	20.7
生物多様性に関わる観察・調査・保全・再生などの活動に参加する	96	26.8
生きものを最後まで責任を持って育てる	135	37.7
生物多様性や環境に配慮している企業の商品やサービスを優先的に選ぶ	103	28.8
自然や生きものについて、家族や友人と話し合う	64	17.9
節電や適切な冷暖房の設定など地球温暖化対策に取り組む	196	54.7
特に行いたいと思わない	6	1.7
その他(任意)	2	0.6



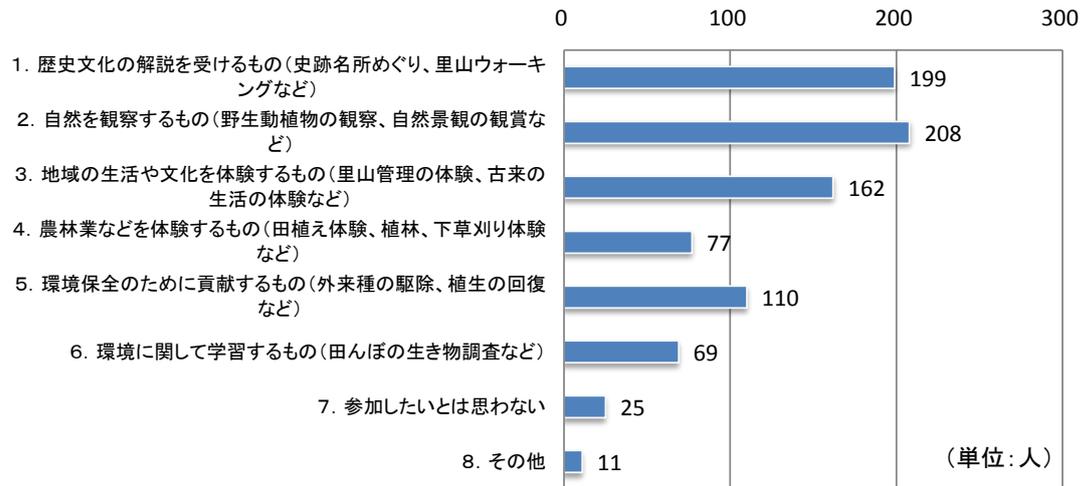
問9 あなたは「エコツアー」に参加したことがありますか。(回答チェックは1つだけ。 n=358)

項目	人数 (人)	割合 (%)
参加したことがある	57	15.9
参加したことはない	301	84.1
合計	358	100



問10 どのような「エコツアー」に参加したいですか。(回答チェックはいくつでも可。n=358)

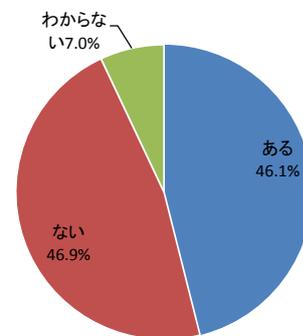
項目	人数 (人)	割合 (%)
歴史文化の解説を受けるもの (史跡名所めぐり、里山ウォーキングなど)	199	55.6
自然を観察するもの (野生動植物の観察、自然景観の観賞など)	208	58.1
地域の生活や文化を体験するもの (里山管理の体験、古来の生活の体験など)	162	45.3
農林業などを体験するもの (田植え体験、植林、下草刈り体験など)	77	21.5
環境保全のために貢献するもの (外来種の駆除、植生の回復など)	110	30.7
環境に関して学習するもの (田んぼの生き物調査など)	69	19.3
参加したいとは思わない	25	7.0
その他 (任意)	11	3.1



問 1 1 あなたはジビエ料理を食べたことがありますか。

(回答チェックは1つだけ。 n=358)

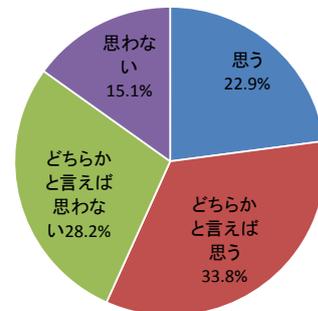
項目	人数 (人)	割合 (%)
ある	165	46.1
ない	168	46.9
わからない	25	7.0
合計	358	100



問 1 2 あなたはジビエ料理を食べたいと思いますか。

(回答チェックは1つだけ。 n=358)

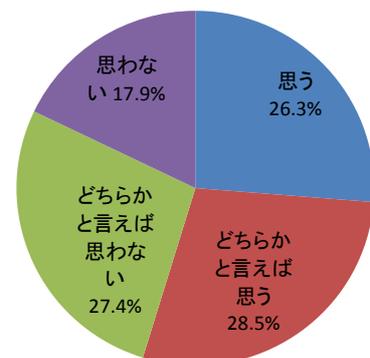
項目	人数 (人)	割合 (%)
思う	82	22.9
どちらかと言えば思う	121	33.8
どちらかと言えば思わない	101	28.2
思わない	54	15.1
合計	358	100



問 1 3 あなたはジビエ料理を食べるイベントがあれば行きたいと思いますか。

(回答チェックは1つだけ。 n=358)

項目	人数 (人)	割合 (%)
思う	94	26.3
どちらかと言えば思う	102	28.5
どちらかと言えば思わない	98	27.4
思わない	64	17.9
合計	358	100



問14 あなたはジビエの活用についてどのようなところに関心がありますか、またどのような点で関心が持てませんか。(抜粋)

<関心がある点>

- ・我が田舎には イノシシ、鹿、さるなどが出没し、田圃の米や農作物を食べ荒らします。人里に来なくても生きていけるぐらいの数に減らすべきと思います。猪や鹿の肉は結構調理しただけでも美味しいです。脂肪が少なく栄養学的にも優れています。捕獲できる人やこなす人などの育成が大事です。また食べる人達にも食物としても美味しいものということを啓蒙広報するのも大事です。給食などに出すと大人になっても食べてくれるようになりますね。
- ・鳥獣駆除等で捕獲された動物達も結局は人間の勝手な都合の犠牲者であると考えています。だから、その命を弔い犠牲にしない為にも例えば、滋賀県が開発した鹿肉カレーのような積極的にそれらの肉を使った料理の開発をすべきであり、例えばであるが、そのような肉を使った料理を提供するお店には減税する等お店にもメリットを出して行政が積極的にアンテナショップを開発すべきである。
- ・食生活は小さいころからの習慣が大きいと思います。私は鶏、牛、豚以外の肉はせいぜい羊ぐらいしかマーケットに出てないので食べたことはあまりありません。しかし生態系のバランスを保つためにある程度の鹿、猪、熊などが捕獲されるのであればそれはすべてを利用するのが筋だと思います。そのためにはジビエ料理を盛んにする必要があると思います。またその肉などの販売や料理方法の広報も必要だと思います。
- ・一度食べたが、意外とおいしかった。調理方法を工夫すれば選択肢は広がる。特定の店でしか購入できないが、もっと市場に出すべき。
- ・ジビエが一般のスーパーには販売されておらず、特殊な分類の食品として認識されているようにおもいます。道の駅や郊外のイベント会場ではよくジビエを紹介したり、加工品を販売されているのを TV、新聞等でよく見るのですが、実際、広く県民の皆さんに周知していただくには、スーパー等で実演販売や、情宣活動が必要だと考えます。
- ・牛、豚、鶏とは違った感覚が楽しめそうところが興味深い。県と猟友会、飲食店が連携して、ジビエ料理が食べられる機会があると足を運んでみたいと思います。
- ・滋賀は山が多く、ジビエとも密接な関係にあると思う。私は他県出身だが、ココ壺番屋の鹿肉を使ったカレーにはとても驚かされた。大手チェーン店が地域限定でもその県で採れたジビエ食材を活用しているのは、とても合理的だと思うし普及活動にもなっていると思う。他企業もこのようにジビエ料理を展開してゆけるよう、県で補助金を出して検討されたいかがだろうか。また、個人経営のジビエ料理店に対しても補助金を行ったり、道の駅や給食に提供してみるなどジビエ料理に触れる機会の場を増やす試みをして面白いのではないだろうか。
- ・なかなか普通のレストラン等で味わうことのできないジビエ料理を味わってみたいという気持ちはあります。なので、イベント等で手頃な値段で販売されていけば食べてみたいと思う。ジビエ料理も食文化であるので、ジビエ料理の安全性（寄生虫など）が確保されているのであれば、給食に出して子供たちに体験させてもいいのではないかとと思う。

<関心がある点>

- ・捕獲された獲物の肉は焼却または年配の猟師、また一部の不心得な猟師は、獲物を山などから運ばなくその場に放置、現場に埋める等と聞いています。流通の仕組みの整備や有効利用の方法がまだ定着していないとも聞いています。野生の生き物でもありきちんと処理され販売されれば、購入したい。

<関心がない点>

- ・牛や豚などの食べ慣れた動物ではない野生の鳥獣を口にするのに少し抵抗を感じる。
- ・ジビエ料理を作って来ましたが、まだまだ日本人には理解出来ない料理だと思う。地産地消で旬の食材を食べる事を忘れた現代では無理かも知れない。流通の発達により、ジビエより手に入り安い食材が溢れているので、主婦は買わないでしょう。また、ジビエ料理を家庭料理にするには無理でしょう。ヨーロッパの食生活を日本に当てはめる考え方がおかしい。日本では山間部の集落で食べられている。
- ・京都美山町で、地域の名物料理のぼたん鍋を食べたことがあるが、敢えてシシ肉などのジビエ肉料理を食べたいと思わない。ましてわざわざジビエ肉を買って来て家で食べようとも思わない。ジビエの活用に関心であるが、理由は味覚や安全面で食用として飼育された牛・豚・鳥の食肉が良いと考えているからである。私の中では、ジビエ肉を好んで食する＝ゲテモノ食いのイメージがある。
- ・命を無駄にせず活用を、という点についてはよいと思うけれど、個人的に狩猟などは好まないため関心が持てない。もちろん誰かが狩猟をしてくれるお蔭でお肉が頂けることは判っているけれど、やはり動物を殺すことは心が痛みます。
- ・家畜用ではない生き物の殺生にあまりいい感じがしません。
- ・「ジビエ」と最近はやされていますが、寄生虫など関係もありますし、料理を美味しく仕上げるためには調理の技量が必要です。ただ煮ただけでは臭いし見た目も悪いため食欲をそそりません。
- ・モノ好きな人が食べる料理。一般人は無理してまで食べなくて良いのではないか。一般的なスーパーではうっておらず、機会もない。
- ・捕獲後の処理によって大きく味などが違うため安心できない。これらを改善することが先決。
- ・しかやイノシシが増えて、作物を荒らすということは聞いたことがありますが、その原因を作ったのはそもそも人間だと思います。森を破壊し自然の生態系を壊した人間が、増えすぎたから命をうばうというのは単なる人間のエゴに過ぎず、まったく関心が持てません。

問15 その他生物多様性についてご意見がありましたらお聞かせください。(抜粋)

①生物多様性の普及・啓発

- ・言葉自体が聞きなれないので、もっと啓発活動から中心に始めるべきだと思います。学校でも教育に積極的に取り入れ、その話を家庭に持ち込める勢いがあるといいと感じます。
- ・一般家庭でも気軽に環境の保全や環境への配慮ができることや方法があれば、積極的に周知活動をしてほしい。
- ・生物多様性という言葉が難しく見え聞こえる。イメージ的に研究用で、一般生活に入って来ない感じがします。なので、説明を受けても難しくわからない。もっと、身近に感じられるような、言葉に変換して欲しい。こどもに説明するときも、難しいし、生物多様性ってなにと聞かれて説明しても途中で興味がなくなり聞かない。生物多様性とはの説明もちらほらと掲示を見ますが、難しく理科の授業のようで、興味ある人しか見ないと思います。
- ・もっと認知が必要だと思います。子供が生活していく上で必要だと理解させることも重要だと思います。
- ・まだまだ認知度が低いと考えます。まずは普及、認知度 up を行政主導で推進すべきと考えます。一般の営利活動では限界があると考えます。
- ・自然保護の大切さは、幼児期からの教育が重要。マスメディアの啓蒙活動が望まれる。自治会単位での教育活動も有効。自治体で安価なツアーを計画していただきたい。図書館で生物多様性に関する書籍の紹介も企画したらどうか。

②行政の取組

- ・生物多様性が重要であることは何となく理解できても、県民レベルで具体的な行動指針が見当たらない。県において、どう県民に動いてもらいたいのか、具体例を示していただきたい。
- ・自然が失われると、人間の生活も失われると思います。人間の営みには自然が欠かせません。小さな事ではゴミのポイ捨て。大きな事では過剰な開発など。県、市がしっかり見張って且つ指導をしてもらいたいです。
- ・滋賀は環境を重んじる県。全国に先駆けて、地球温暖化だったり琵琶湖環境保全だったり、生物との共同生活を重視した事業の実施を期待します。
- ・多様な生物が育てる環境を維持するための法整備や保護地域の指定が必要だと思います。
- ・固有種がどのくらい減っているのか？それはどうしていけないことなのか？例えば、「蚊」は絶滅してほしいと思うことがあるが、それはなぜ危険なのか？世の中の自然の仕組みを知り、納得できる場が欲しい。
- ・滋賀県は自然が豊かであるが、私は滋賀県草津に住んで20年経つ間に田んぼは住宅に代わり、新しく道路ができて、自然が減った。人間の便利さと自然保護を両立させることはかなり難しい。自然保護は重要と言いながらも、つつい便利さを求めるのが人間。県や市が制限をかけて下さい。
- ・農林業を工業化するだけでなく、知恵の継承、文化の伝承をはかり日本国の良さを見直すような施策をとってほしい。

③その他

- ・子孫のために自然を残しておいてやりたい。生物多様性とは、即ち人間にとっても一番大切なことだと思います。
- ・かつて会社の環境の仕事を担当していた時から、生物多様性という専門用語的表現に疑問を持っていた。専門用語と多くの人がかかわるべき事項の用語とは区別されるべきで、もっとイメージしやすい用語にできないものかと思う。
- ・人が生きて行くうえでの根幹部分になると思われます。互いに共存出来る環境を整える必要性が有るとと思われます。我々には身近に琵琶湖が有りますので、その琵琶湖を利用して県民の多くの方に理解して頂ける様に努めて頂きたいと思います。
- ・生物多様性や地球温暖化防止の視点において、一人ひとりが自然環境や動植物と共生していく意識を持てるようにしていくことが大事だと思う。
- ・自然豊かな滋賀を守って欲しいです。
- ・今回のアンケートの背景があまり見えず、回答に戸惑いました。生物多様性という言葉が抽象的で具体性に欠けるからなのだろうと思います。この言葉を使用しないでもっと具体的に1つ1つ問題点を解決する方がよい気がしました。
- ・自然生態系も大切だが、身近なペットを責任を持って育てることや、営利のためのブリーダーの取り締まりも大切。